

NAMURA
ART MEETING
'04-'34 Vol.05

臨界の 芸術論Ⅱ —10年の趣意書

プロジェクト・ミーティング & インタビュー

2014年12月9日[火] 19:00-20:30 | 松尾 恵

2015年1月17日[土] 17:00-19:30 | 港 千尋

会場 名村造船所跡地 [大阪市住之江区北加賀屋4-1-55]

料金 無料

問合 E-mail office@nam04-34.jp

URL <http://www.nam04-34.jp>

主 催 NAMURA ART MEETING '04-'34実行委員会

助 成 一般財団法人おおさか創造千島財団

平成26年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

 おおさか創造千島財団

 文化庁
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS



NAMURA ART MEETING '04-'34 Vol.05

臨界の芸術論II—10年の趣意書

NAMURA ART MEETING '04-'34は、2004年から2034年までの30年間を芸術のひと連なりの現場ととらえ、ここでの〈出来事〉を共有しつつ未来を創造する実験です。本プロジェクトは、新しい芸術の提示に留まらず、議論や考察、調査、記録といった同時多発的な〈出来事〉によって、芸術と隣り合う社会や個人と有機的につながることを自論んでいます。

人々が遭遇し、合流して生まれる《知》に、未来を創造しようとするすべての個人にとっての有為な手がかりがみつかるはずです。21世紀初頭の30年間の芸術の変遷を追い、未来を思い描くための〈出来事〉を創造する本プロジェクトが今年で10年(Vol.05)を迎えるにあたり、これまでに〈語られたこと〉を断片化し、再び統合する過程において浮き上がる〈思わずも(in spite of)語られたこと〉を丹念に読み解きます。

この《脱-構築》的プロセスによって編集されたテキストは、2034年までのこれから未来を構築するうえで、〈わたしたち〉がいまどのような《知》を拠り所に〈出来事〉を起こすのか、つぎなる《起程》への導となることでしょう。加速度的な社会の変化によって先が見えなくなってしまった未来を再び〈わたしたち〉自身が自由に思い描くために、そして、臨界点ともいるべき現代社会における〈芸術〉の努めを果たすべく、『臨界の芸術論II—10年の趣意書』を編纂します。

*本プロジェクトミーティング&インタビューは、「声なき声、いたるところにかかりわいの声、そして私の声 芸術祭2」の一環としても行なうものです。

主催 大阪大学文学研究科
共催 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
大阪大学国際公共政策研究科
大阪大学総合学術博物館
助成 平成26年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」
「劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業」



■プロジェクト・ミーティング&インタビュー

NAMURA ART MEETING '04-'34は、2004年から10年に渡り《理論》と《実践》のプラットフォームを構築してきました。このプラットフォームで起きた〈出来事〉を、過去の記憶や記録、記述から抽出し、それらをほぐし解体し、断片化された情報を眺め分類し、再び統合しなおした上で脚注を付加することにより新たな物語『臨界の芸術論』として紡ぎ直します。

日時 2014年12月9日 [火] 19:00-20:30

ゲスト 松尾 惠

内容 Vol.00-02までの4年間に渡って実行委員を務めた松尾惠さんをお招きし、NAMURA ART MEETING '04-'34の経緯や当時の出来事などについてお伺いする。

日時 2015年1月17日 [土] 17:00-19:30

ゲスト 港 千尋

内容 NAMURA ART MEETING '04-'34のこれまでの活動を振り返るとともに、「10年の知を編集する」その進め方についてのアドバイスとして、アーカイブにおける〈創造〉をテーマにお話をいただく。
さらに、芸術監督を務める「あいちトリエンナーレ」の展望とあわせて、今後の10年をともに考える。

プロフィール

松尾 惠 | まつお めぐみ

MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/wディレクター。

1986年にギャラリーを開設し、主に現代美術の若手紹介。2010年より「超京都」主催。1990年代初めから京都の文化行政にかかわる。公益財団法人京都市芸術文化協会(京都芸術センター指定管理者)理事、公益財団法人京金文化振興財団評議員、PARASOPHIA2015京都国際現代芸術祭プロフェッショナル・アドバイザリー・ボード。京都市立芸術大学、京都嵯峨芸術大学、京都造形芸術大学大阪藝術学舎等において現代美術やアートマネジメント関連の非常勤講師。

港 千尋 | みなと ちひろ

写真家・写真評論家

早稲田大学政治経済学部卒業。あいちトリエンナーレ2016、芸術監督。2013年より国際交流基金国際展事業委員を務める。群衆や記憶など文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション等、幅広い活動を続けている。著作『記憶—創造と想起の力』(講談社/96年)でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。2006年釜山ビエンナーレ共同キュレーター、2012年台北ビエンナーレ共同キュレーター、2007年ヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館コミッショナー。